

施策の方向性A「文化にかかわる環境づくり」

①芸術文化を鑑賞等できる機会の充実

事業名	実績・評価
<p>舞台鑑賞会 (能・狂言、上方芸能、歌舞伎)</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 能狂言 「大槻能楽堂で館内ガイドツアー」R5.1.13 大槻能楽堂：計53人 「はじめての能楽の世界」R5.1.13 大槻能楽堂：計312人 「こどもたちのしむ“お能”の世界」R5.2.18（2回） 大槻能楽堂：計543人 上方芸能 「上方芸能華舞台」R5.3.18 天満天神繁昌亭 198人 「初心者のはじめの寄席 繁昌亭」 R5.3.26 160人 「繁昌亭・春休み こどもらくご教室」（小学校低学年向け）R5.3.21.25 計398人 「繁昌亭・春休み こどもらくご教室」（小学校高学年向け）R5.3.26 198人 歌舞伎 歌舞伎鑑賞会の参加者数：270人 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、参加を断念する学校が多数。 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象を市民としているが、特に青少年をターゲットにした事業である。各分野の観客のうち青少年が占める割合はまだ少ない。分野ごとに実施事業者が違うため一概に評価をすることは出来ないが、子どもたちおよびその家族が興味を持つような訴求が必要である。 能楽堂で行われたバックステージツアーを視察したが、普段見れないような舞台裏を若手能楽師が丁寧に説明しながら回る体験は、普段の観劇では得られないような満足感に繋がる。今後もぜひ続けて欲しい。 上方芸能は大阪が世界に誇る舞台芸術であり、その素晴らしい伝統を体験し知ることが重要であると同時に、この大切な文化が社会においてどのような価値を生むのかを考える機会があっても良い。文化芸術の本質的な価値はもちろんであるが、それが観光資源になり都市魅力の根幹になることを理解し、文化芸術が社会に無くてはならないことを学ぶきっかけになる取り組みを検討して欲しい。
<p>舞台鑑賞会 (演劇)</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人形劇「銀河鉄道の夜」 ①R5.1.7 ②R5.1.8 一心寺シアター倶楽 来場者数合計：計300人 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度のアーツカウンシル部会からの評価コメントを受け、大阪の演劇関係者の機会創出に繋げるため、業者選定の仕様書に「実演するのは大阪で活動をする団体」を条件に加えたことを高く評価する。 大阪は言わずと知れた小演劇の街であり、その数や多様性は演劇の街であるロンドンに引けを取らないという評価がある。クオリティの高い演劇公演を青少年に提供するだけでなく、大阪の演劇文化がいかに世界に誇れるものかを知り、大阪に対する誇りを持つ取り組みなどを取り入れることを検討して欲しい。 新型コロナウイルス感染症が蔓延するまでは5-6社ほどの応募があったとのことだが、コロナ禍を機に2社程度の応募になっている。この原因を突き止め、募集要項や仕様書の内容を改善し、たくさんの事業者に興味をもってもらえる事業にするべきである。

②芸術文化を将来へ継承発展させる子どもや青少年が成長する機会の充実

事業名	実績・評価
<p>中学生が参加する コンサート</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「はじめましてオーケストラ」（R5.3.28 ザ・シンフォニーホール） 参加中学生数：443人 来場者数：793人 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期化した新型コロナウイルス感染症により、学校での文化芸術活動の機会が減っていた中で、日本を代表する一流のプロフェッショナルオーケストラとの共演する機会を提供できることは大きな成果である。 事前の学校訪問指導ではオーケストラの団員が学校へ赴き、生徒たちに直接のきめ細かな指導を施している点を評価する。 公募型プロポーザルで実施事業者を募集しているが、例年1社による入札に留まっている。より積極的な声かけをすることも必要だが、同時により多くの事業者に参加の機会が与えられるよう、募集条件や仕様書の内容を見直す必要がある。 オーケストラとの合同練習では練習場所の広さの関係上、各学校からの選抜メンバーのみが参加する形式となっている。アンサンブルの醍醐味である皆で音楽を作り上げるプロセスを考えるのであれば、合同練習時からなるべく多くの生徒が集まれる方法を考えて欲しい。 例年コンサートの選曲が比較的似たものになってきている。初めての方でも親しみやすい演奏会を目指すのももちろんであるが、参加する生徒が挑戦することが出来る選曲も期待したい。 事業終了後に生徒および顧問の先生からのアンケートを行っているため、その結果をもとに、より生徒や顧問の先生のニーズに合わせた改良を図って欲しい。

<p>舞台鑑賞会 中高生のための文楽 夏休み親子ヘア文楽</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文楽鑑賞教室」R4.6月 国立文楽劇場 参加者数：1,812人 ・夏休み文楽特別公演「親子劇場」 R4.7月～8月 国立文楽劇場 参加者数：1,934人 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりの開催となる「文楽鑑賞教室」では大阪市立小・中学校18校から1,812名が参加とあるが、コロナ禍前の水準には戻っていない。今後も本事業を継続させ、より多くの児童・生徒の方々に文楽に触れる機会を創出して欲しい。 ・子どもたちの鑑賞機会は子どもたちの判断だけでなく、周りの大人の判断によるところが大きい。そのような中で大阪市立中学校教育研究会音楽部に所属する先生方の「文楽鑑賞教室」参加が実現したことは評価したい。今後は音楽分野だけでなく、国語や歴史など別分野の先生方にも興味を持ってもらえるよう働きかけを期待したい。 ・「夏休み親子文楽」については2,935名の申し込みがあったが、1,934名の参加者にとどまっている。約1,000名の方が興味があるにも関わらず、劇場に足を運んでいないことになる。この理由を調査し本事業内で改善することが出来るのであれば、迅速に対応する必要がある。
<p>こども本の森中之島 運営事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の運営にかかる満足度92% <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こる渦中で開館をした施設であり、コロナ禍以前の入館者数と比べることは出来ない。しかし、その施設建築やその背景にあるストーリーは全国的に興味を惹くものであり、いろいろな要因と相まって入館者数の増加に繋がっている。 ・平日の入館者数が伸び悩んでいるため、子どもやその家族以外の来館者をターゲットとして考えてみる必要があるのではないか。 ・大阪文化課が所管する別の文化事業（例えば大阪クラシック）とのコラボレーションにより、新たな入館者の開拓に繋がっていることを評価したい。 ・子どもが本や読書に親しむことを目的に掲げた施設ではあるが、海外観光客の入館者も多い。上記に述べたように平日の入館者数の伸び悩みを抱えていることもあるので、海外観光客が有意義な時間を過ごし、大阪の文学に対する取り組みを理解してもらえるよう、更なるアクセシビリティの整備を期待する。

③芸術文化を支える市民意識の醸成

事業名	実績・評価
<p>芸術・文化団体 サポート事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4年度実施分 対象団体：23団体 寄付金額：7,148千円（R5.3月末まで） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットやウェブサイトに対象団体の写真や活動紹介を入れるなど、着実に改良を加えてより良い周知活動を目指していることを評価する。しかし、目標寄付件数が195件に対して、実績は150件に留まっている。日本において寄付文化の醸成は簡単なものではないが、確立された制度で寄付者に対するメリットも大きい。本事業の周知のみならず、寄付者に対するのメリットや文化芸術を通して様々な分野に起こる波及効果を説明し、より寄付行為に対するポジティブな印象を持ってもらうための努力が必要である。 ・本事業は登録団体がどのように活用するかによって、寄付件数および金額が変わってくる。大阪アーツカウンシルや大阪市アーティストサポート窓口事業と協働し、事業者に対しクラウドファンディングや寄付の呼びかけを支援するような講座などを継続して行う必要がある。それによって、事業者自身がこの仕組みを有効活用をし、既存の補助金や助成金支援に加えて、資金調達をする手段が築き上げられることを期待する。

施策の方向性B「文化が都市を変革する」

①芸術文化を創造する人材や支える人材の育成・支援

事業名	実績・評価
<p>芸術活動振興事業 助成金</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請件数 一般助成：上期106件／下期131件 特別助成：101件 合計：338件 ・交付決定件数 一般助成：上期71件（うち中止9件）／下期76件（うち中止8件）（3月末時点集計） 特別助成：30件（うち中止0件） 合計：177件（うち中止20件） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化芸術活動やそれらの担い手を支え、国際文化都市としての大阪の発展には、本事業はなくてはならないものである。また、個人として活動するアーティストや民間の文化芸術団体・法人が公共の文化事業に関わる接点となり、大阪市や大阪アーツカウンシルとのコミュニケーションを取ることのできる機会となっている。 ・一般助成枠の拡充支援は実施できなかったが、特別助成枠は従来の400万円上限から600万円上限まで引き上げられることとなった。新型コロナウイルス感染症の影響が残っており、観客の戻りがコロナ以前の状態に戻っていない。そのような状況がまだ続くと思われるので、このような手厚い支援を行えたことを高く評価する。 ・一般助成枠と特別助成枠の上限額の差がとて大きくはなっているが、大阪における文化芸術活動の規模はその間に分布している。対象経費や対象外経費についても、コロナ禍を経た文化芸術活動に対して適合していないケースもある。大阪における文化芸術支援の新しいフェーズを見据えて、本助成金制度の設計の見直しを検討する必要がある。

<p>咲くやこの花賞</p> <p>咲くやこの花賞 受賞者等支援事業</p>	<p>【咲くやこの花賞受賞者等支援事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「咲くやこの花コレクション」：「真山隼人 浪曲の世界」（R4.11.4ナレッジサロン）ほか4プログラム ・受賞者のインタビュー記事の発信：5回（予定） <hr/> <p>【咲くやこの花賞実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・贈呈式：R5.2.14 大阪市中央公会堂 ・受賞者：（美術部門：現代美術）國久真有（音楽部門：オペラ演出）奥村啓吾（演劇・舞踊部門：歌舞伎）上村吉太郎（大衆芸能部門：落語）桂二葉（文芸その他部門：小説）一穂ミチ <hr/> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・咲くやこの花賞は、多彩な大阪市の文化芸術人材を顕彰することにより、大阪の文化芸術に対するシビックプライドを醸成する取り組みとして非常に重要なものである。 ・本年度より事務局の透明性を確保するため、事業者を公募プロポーザルで選定をする運びとなった。民間に広く事業者が募集されることになり、大阪市の文化事業に関わる機会が増えたことになるので、その点を高く評価したい。 ・本年度よりSNS（特にFacebookやTwitter）の広報に力を入れており、受賞者、出演者、公演情報の投稿のみならず、それらの方々のコメントをリツイートするなど、積極的な広報活動はこの事業の認知度を確実に挙げていていると考える。 ・受賞者が咲くやこの花コレクションにおいて公演やワークショップの機会を与えられることは素晴らしいことではあるが、大阪市および大阪府下の自治体が行う他の文化事業への優先的な参画などを考えてみてはどうか。
<p>大阪文化賞</p> <p>大阪文化祭賞</p>	<p>【大阪文化賞実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受賞者：塩田 千春（芸術・美術） ・授賞式：R5.3.26 ホテルプリムローズ大阪 <hr/> <p>【大阪文化祭賞実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受賞者 <ul style="list-style-type: none"> 【第1部門】花柳 與：「花柳與卒寿記念舞踊会 一扇会」の舞台の成果 【第2部門】桂 あやめ：「40周年あやめの会」の成果 【第3部門】奈良 ゆみ：「祝祭の夜 サティとフランス六人組」の成果 <hr/> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも長い歴史を持つ大阪文化賞や大阪文化祭賞であるが、大阪府内で活躍する文化芸術の分野で優れた業績を挙げた人々を表彰することにより、地域文化の発展や文化芸術の振興を図るだけでなく、大阪の文化芸術の豊かさを証明するものとなっている。また、受賞者たちは、表彰によって大きな励みとなり、更なる芸術・文化活動の発展に繋がることが期待される。 ・HPでは過去の受賞者の情報を閲覧することは出来るが、基本的な活動情報や受賞理由が確認できるだけに留まっている。SNS運用などは労力と時間がかかるため現実的ではない。しかし、近年では受賞者自身がSNS発信をしている場合が多く、授賞式などの写真などを提供し、積極的にSNSなどで拡散をしてもらおう働きかけや、ハッシュタグなどを統一して受賞者自身がこの賞のことを発信する仕掛けなども考えて欲しい。
<p>織田作之助賞</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・贈呈式 R5.3.2 綿業会館 ・受賞者及び受賞作品 <ul style="list-style-type: none"> 織田作之助賞：滝口 悠生氏「水平線」 織田作之助青春賞：菊池 フミ氏「浴雨」 奨励賞：該当なし <hr/> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1984年から始まった歴史ある文学賞であり、大阪のみならず日本全国の文学芸術を支える顕彰事業となっている。来年度は40周年を迎えるため、その長年の功績を可視化するなど、本事業の価値の再確認を出来る取り組みを検討して欲しい。 ・青春賞への申し込みが前年度の3割増になったということで、若年層での認知度が上がっている可能性がある。認知度向上の要因を調査し、その部分へのアプローチを強化することにより、本事業の更なる認知度向上に繋げて欲しい。 ・日本の文学芸術を支える本事業のポテンシャルは非常に高いものであると考える。本事業の発展的な継続に向けて、強固な事務局体制を確立するとともに、新たな構成員や支援者を募るなど発展的な運営体制に向けて意識の改革をする必要がある。
<p>大阪文化芸術創出事業 (会場費支援事業)</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期（R4.7～8の実施事業） 281事業に交付決定 ・第2期（R4.9～10の実施事業） 314事業に交付決定 ・第3期（R4.11～12の実施事業） 324事業に交付決定 ※交付決定後に取消し等の申請があったため、最終交付事業数とは異なる。 <hr/> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が第5類に移行される予定だが、まだ文化芸術業界は観客の戻りが完全でないため、厳しい状況に置かれている。その状況下において、次年度に3年目の支援が出来ることは、大阪の文化芸術関係者にとっては非常に大きな助けとなっている。 ・支援対象を登録された会場における施設使用料に絞ることにより、迅速な支援が可能となっている支援スキームであり、日本の文化芸術支援において大阪が誇れるものである。 ・抽選により支援事業者を決めることになる仕組みは仕方ないことではあるが、来年度より改良を加えようとしている姿勢に対して評価したい。

<p>大阪文化芸術創出事業 (活動推進事業)</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪文化芸術創出プログラム2022を実施 公演数：79回（事業全体：158公演/2） ※主催・共催プログラム=133公演、参加プログラム=25公演） 鑑賞者数：181,061人（事業全体） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症で影響を受けた文化芸術の支援を、本年度は2倍の予算で手厚く実施できたことを高く評価したい。 新型コロナウイルス感染症に影響を受けた大阪ゆかりのアーティスト・演芸人や楽団員の公演・活動の場を創出することが目的に挙げられているが、出演の大半を占めているのはエンターテインメント色が強いアーティストや芸人であった。賑わい創出を中心として、普段文化芸術に敷居の高さを感じている客層に対して扉を開くという意味では、一定の成果を挙げていると評価できる。しかし、大阪の文化芸術を根強く支えてきたアーティストや団体がいることを認識して、プログラムや出演者の選定を行うことは必須である。 出演するアーティストや団体だけに視点が向いているが、プロデューサー・マネージャー・コーディネーターなど、アートマネジメント人材などが参画する枠も検討してもらいたい。事業の企画段階から、行政、委託事業者だけでなく、各分野の専門家や地域の人材など多くの関係者が参画し、公共財としての文化芸術を守り継承し発展させる人材育成にも取り組む必要がある。 2025年の大阪・関西万博では日本のみならず海外からも注目を集める大阪であるが、その土地で育まれた豊かな大阪の文化芸術は、観光政策や都市政策の強靱な土台になるものである。一過性のイベントではなく、国際的に通用するアーティストや団体の活動を守り継承し発展させる役割を、本事業が担っていることを再認識して欲しい。
<p>芸術創造館管理運営</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 演劇練習室稼働率73.1% 音楽練習室58.7%（1月末現在） 自主事業（当初計画） アーティストチャレンジ、テクニカルワークショップ、スタジオライブコンサート <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の前半はまだ新型コロナウイルス感染症の影が残っており、稼働率が50%前後であった。しかし、後半はおおむね70%代まで引き上げることに成功している。指定管理者の自主取り組みとして、ナイトシアター、旭区民無料モニター、ポールペンプレゼントなど、稼働率と認知度の向上に対し積極的に働きかけを行ったことを高く評価したい。 本施設は、大阪の演劇を始め音楽や舞踊など様々な舞台芸術の担い手の創造環境を支える、非常に重要な役割を果たしている。引き続き、利用者や地域の方々からのニーズや意見を把握することに努め、更なる認知度と機能の向上に取り組んで欲しい。 大阪における舞台芸術分野では圧倒的に演劇の数が多く、それにより本施設も演劇施設として認知されていることが多い。しかし、舞台芸術全般の創造活動環境を包括的に支えるアートセンターであることから、演劇のみならず音楽や舞踊など様々な表現分野の特性や希望などを把握し、他分野での認知度向上と使いやすさ向上にも努めて欲しい。
<p>芸術創造館 ショーケース事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 応募団体数 43団体 選定団体数 20団体 ワークショップ参加者数 延べ33名 記録映像配信 3月30日～ <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せ始めてはいるが、舞台芸術においては観客の戻り具合が完全ではない状況である。そのような状況下において、昨年度に続き、舞台芸術表現を育む本事業が実施されたことは非常に高く評価できる。 出演団体等に対するワークショップは「舞台監督について知る」と「自分の活動を知ってもらうには？」をトピックとしており、舞台芸術におけるキャリアや自立的な活動に繋がる取り組みをしている。しかし、これらを学ぶ機会はコロナ以前より存在しており、また他地域や民間事業者でも実施されている内容である。これからコロナの影響を乗り越えるアーティストやマネジメント人材が必要になるスキルを精査し、公共でしか取り組めないユニークなトピックを学ぶ機会の提供を期待する。 公演支援として、舞台芸術の専門家（プロデューサー・プログラムディレクター等）を配置し出演団体の指導や助言を行うとの記載があったが、それらの役割を内部スタッフが担っていたようだ。それ自体が問題であることはないが、外部の専門家を招聘することにより、より広い視野で公演制作について考えカバールすることが可能になる。
<p>アーティスト サポート事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート満足度：85% 個別相談会参加組数：34組（第1回：10組、第2回：16組、第3回：5組、第4回：3組） 講座開催回数：4回 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度より開始された事業であり、短い準備期間で安定した運営を出来る事業体制を整えられたことを評価する。 コロナの影響を受けた文化芸術関係者に対しきめ細かい丁寧な対応をしいる。また、責任者や相談員間の情報共有や、常に課題を把握して解決を行う対応力は、本施設の利用者の満足度の向上に繋がったと考える。 1年目の事業となるため認知度の向上が必然的に求められるわけだが、SNSを積極的に活用したことにより一定の成果を挙げている。しかし、相談窓口の特性上、その存在を知った人が気軽に訪問する場所ではない。それぞれの表現分野での統括団体や核となる人材との人的交流により、信頼を確立し、結果的に安心して相談に来れる場所になる。そのため、引き続き地域の文化芸術関係者を始め教育機関などのコミュニケーションを大切にしたい。 コロナの影響を受けた文化芸術関係者の大きなセーフティネットとなっている。今後はその方々の自立的・持続的な活動や運営を目指すためのサポートの提供を考えて欲しい。インボイス制度や労働契約に関する学びの場を迅速に提供しており、すでにその取り組みはなされていると判断する。しかし、そこに満足することなく、文化芸術活動やその担い手をより安定した活動環境に導くため、経営やマーケティングなどのビジネス的な視点を持つための学びの場や支援を考える必要がある。

②上方伝統芸能等の継承・発展

事業名	実績・評価
<p>文楽を中心とした 古典芸能振興事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文楽公演「中之島文楽」(R4.10.14~15)(大阪市中央公会堂)1,040人 ・文楽公演「COOL文楽Show」(R5.3.13~14)(クールジャパンパーク大阪TTホール)1,182人 ・公式ホームページ アクセス数:約15,355回(3月30日時点) ・フリーペーパーの配布数 約10,000部 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「COOL文楽Show」では、これまで人形浄瑠璃文楽の公演を実施したことのないクールジャパンパーク大阪TTホールを会場として開催し、文楽×講談×プロジェクトマッピングという古典芸能と現代美術という異質なコラボレーションを行い、新しい世界観を作り上げたことを高く評価する。また、プロジェクトマッピングには過去に咲やこの花賞を受賞した現代美術家の後藤靖香氏を起用するなど、大阪市にゆかりのあるアーティストへの機会創出にもなっている。 ・文楽の魅力にかかる情報発信の一環として、文楽人形による関西空港から国立文楽劇場までのアクセス動画を7カ国語で作成し公開をした。その成果物はオリジナリティ溢れ、海外観光客に文楽の魅力を知りやすくするものである。映像を公開しただけに留まることなく、今後はその動画の有効活用方を検討して欲しい。 ・コロナ禍が終息に向かいつつあり大阪へのインバウンド等観光客も回復傾向である。また2025年の大阪・関西万博も控えており、文楽を中心とした大阪ゆかりの古典芸能の素晴らしさを、文化芸術のみならず観光や都市魅力からの観点からも発信して欲しい。
<p>大阪市立美術館の 魅力向上</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修工事着工 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月より工事着工をしているが、その工事期間中にできる取り組みを検討して欲しい。例えば、SNSなどをはじめ情報発信であれば、過去の企画展示の写真掲載や工事の経過を紹介する写真など。リニューアルオープンをする際に市民の方々がワクワクし、待ちに待ったリニューアルオープンという期待を持てるような機運醸成があって欲しい。 ・本美術館は天王寺公園のエントランスエリアと茶臼山北東部エリアの天王寺地区の文化エリアに位置している。昨年度の評価でも触れられているが、横浜美術館改修工事中の仮囲いを利用した若手アーティスト紹介「Wall Project」などを参考に、工事期間にしか出来ない取り組みなどを考えて実践することを期待する。

③芸術文化による大阪の魅力向上

事業名	実績・評価
<p>大阪クラシック</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間: R4.9.4~9.10 ・主な会場: 大阪市中央公会堂・フェスティバルホール・Zepp Namba及びオンライン配信など ・出演楽団: 大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、日本センチュリー交響楽団 Osaka Shion Wind Orchestra ・公演数: 47公演 ・来場者数(合計): 28,563人(YouTube視聴者数含む) <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策として収容率50%とし、さらに抽選で来場者を選出するという対策を施してはいるが、無料公演を再開させることが出来た。このことを高く評価したい。また、オンライン配信に加えて新たにライブ配信を実施し、大阪以外のエリアからの視聴が多数あり、動画配信再生回数が2万回を超えた実績は素晴らしい。 ・出演者が提案するプログラムを採用する形が取られているが、そうすると出演者目線での選曲となってしまう、必ずしも幅広いオーディエンスが楽しめる選曲になっていない場合がある。プログラミングや会場選定には専門家などの意見を聞き、このイベントを享受する市民の目線で内容を考えて欲しい。 ・第一級のクラシック音楽に親しむ機会を提供することが目的となっているが、結果として在阪の4つのプロフェッショナルオーケストラと1つのプロフェッショナル吹奏楽の団員のみが出演者対象となっている。プログラムの一部にソリストやアンサンブル活動をしているフリーランス音楽家が参画出来る枠を設け、より地域に根ざして活動しているプロフェッショナルが大阪市の文化事業に貢献できる機会を設けることを期待する。 ・演奏だけでなく制作やマネジメントの部分にも注目をし、今大阪で不足しているクラシック音楽分野でのマネジメント人材育成の要素をこの事業に入れることを考えてもらいたい。

大阪アジア映画祭	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪アジア映画祭（開催期間：R5.3.10～3.19） 上映作品数：51作品（16の国と地域の作品） 開催会場：ABCホール、梅田ブルク7、シネ・リーブル梅田、大阪中之島美術館、国立国際美術館 シンポジウムやワークショップ、ポスター展を開催 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪・関西万博を控える中で国際的な注目を集める大阪である。大阪アジア映画祭は18年の歴史を重ねる中で、上映作品が海外の国際映画祭でも評価されるなど、大阪発の国際映画祭として世界の映画関係者の認知度が高まっている。今後は海外に向けた情報発信にも取り組み、大阪の映画やメディア芸術の分野における魅力を国内外に存分に伝えて欲しい。 「映画祭」と題しているため、オープニングやクローージングイベントは盛り上がりのある祝祭感のある演出が必要である。また、各種SNSや各メディアに取り上げてもらう等、映画祭自体をより知ってもらう取り組みに努めてもらいたい。 上映会後に行われる観客から監督や出演者への質疑応答など、観客との交流が出来る機会を設けていることは素晴らしい。しかし、過激な意見や公共の場においてふさわしくない発言、誤解を生じさせかねない事態等も起こりえるため、運営側や担当する司会者はそのような事態を想定して対処マニュアルなどを作成して、その場にいる全員が安全かつ有意義な時間を過ごせるように徹底する必要がある。
現代芸術振興事業 (プレーカープロジェクト)	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「作業場」「西成・子どもオーケストラ」（もと今宮小学校において実施） ちょちょまうヴァナキュラー（もと今宮小学校において実施） 創造活動拠点を活用したレジデンス事業（西成区山王において実施中） トークイベント「アートを・育む・まち」（大阪中之島美術館において実施） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長年西成区に根差した現代美術の活動を行うことによって、そのコミュニティに根ざした独自性のある世界観を創り上げ、芸術を通じた地域の活性化に寄与している。本年度より成果をより戦略的に市民に還元するために西成区への事業移管したが、事業者と行政職員の距離感が縮まることとなり成果を挙げている。今後の更なる展開に期待をする。 地域の児童館や高校との連携、西成区のプレーパーク事業「お出かけジャガピーパーク」との連携があり、西成区その他分野の事業との協働により、本事業の成果をさらに幅広い区民や市民に享受してもらう取り組みを評価する。 様々な活動、特にレジデンス事業として行っているリサーチプロジェクトは興味深い。しかし、ウェブサイトなどを閲覧するが具体的にどんなことをやっているのか？どんな想いでやっているか？など、興味を持った方々への情報発信に改善すべき点がある。今後は芸術活動を実施することだけに留まらず、その活動を享受する区民や市民の目線に立つて情報発信することに取り組んで欲しい。

施策の方向性C「文化が社会を形成する」

①芸術文化の有する地域力向上や社会包摂の機能を生かした共生への取り組みの促進

事業名	実績・評価
地域文化事業	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 淀川区『「1千人の第九」コンサート』ほか5区で開催 ※2区については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の文化芸術活動をより住民に寄り添い活性化させる事業であり、区CM制度を利用して着実に結果を出していることを評価する。地域の文化芸術関係者が各行政区との接点を持つ機会であり、行政職員と文化芸術関係者のコミュニケーションを産む場である認識を持って欲しい。 現在では実施事業に対して各区の職員は視察を行なっているが、専門家による視察や意見交換などは行われていない。それぞれ実施された事業やそれを行なったアーティストやマネジメント人材の育成の観点からも、大阪アーツカウンシルの委員やアーツマネージャーが視察を行い、各区が不足するフォローアップの部分を補うことを検討する必要がある。

文学碑記念の集い 文学碑維持管理	<p>【文学碑記念の集い事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第42回文学碑記念の集い」（R4.10.29 太平寺） ・参加者数：47人 ・出演者：岸政彦（作家）・竹田モモコ（演出家・女優）
	<p>【文学碑維持管理事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央区内の（宇野 浩二碑、薄田 泣菫碑）の2基について現状確認及び必要な整備を実施
クラシック音楽 普及促進事業	<p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本屈指の文学の街である大阪において、地域と文学芸術を結ぶ文学碑ネットワークを可視化させる事業で、そのポテンシャルは高い。しかし、大阪は文学の街という認識は一部の文学ファンだけのものである。限られた予算であり本事業内で出来ることは限られるが、他の事業との掛け合わせにより、大阪の文学の歴史に資する事業として欲しい。 ・第38回織田作之助賞を受賞した岸政彦氏と、戯曲家また女優として活動する竹田モモコ氏を迎えた講演会は、話題性もあり文学ファンを魅了するものであった。 ・文学碑をより身近に感じてもらい、地域文化の誇りと市民が捉えることをさらに促し、他分野への相乗効果も期待できる事業である。例えば文学ファンが街歩きをする観光パンフレットを作成し、文学と観光を掛け合わせる。教育プログラムとの連携により、国語や大阪の歴史につなげるなど、たくさんの可能性を秘めていることを認識して欲しい。石碑の維持だけでなく、その資産がどのように活かされるか？どこで活かされるか？などの視点を持って欲しい。
	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にしなりクラシック ～ 北欧と東欧の大地の息吹 ～」（R5.2.23 大阪フィルハーモニー会館 来場者数（合計）290人） ・大阪フィルハーモニー会館 市民利用割合 29.9% <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にしなりクラシック」では注目を集めている女性指揮者である阿部加奈子氏を招聘して公演を行い、質の高い演奏に加えて話題性のある公演でほぼ満席になっていた。客席制限が無い状態で満席になる人気は実績として評価出来るが、西成区や地元の方々の参加がどれだけあるのかを把握してもらいたい。クラシックファンが低価格で大フィルの演奏会を聴きに來る、ということにならないように、地域での広報活動に力を入れる必要がある。 ・本施設は駅からのアクセスも優れており、アーティストや実演団体などからもニーズがあると考えられる。HPやSNSなどで積極的に貸館情報（施設について、時間帯や料金、使用方法など）などについての発信を積極的に行い、貸館利用率の向上を図って欲しい。 ・西成区民に地域への誇りと愛着そしてオーケストラへの親しみを感じてもらえる取り組みとして、区役所との連携に留まらず、地元の商店や事業所などとの連携を図り、区民の参加をより促進させる取り組みを期待する。

②文化財や史跡の保存・活用・継承

事業名	実績・評価
中央公会堂管理運営	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会室等の利用率 58.8%（2月末時点） ・全国的な又は国際的な学会等大阪の都市魅力の発信に資する催しの誘致件数 6件 ・中之島地区の他施設との連携によるイベント（科学館：100年目のアインシュタイン、中之島図書館：ガイドツアーコラボ、こども本の森：特別講演会共催）を積極的実施により、中之島エリアへの賑わいに貢献。
	<p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央公会堂は、市民とともに育んできた近代大阪の誇れる遺産であり、大阪の文化を牽引する中之島エリアのシンボルである。重要文化財として建物をよりよく保存継承するとともに、市民の文化活動とともにある現役の公立文化施設として、存在そのものがシビックプライドになるよう、引き続き管理運営する必要がある。 ・空調やトイレなどのリノベーションを逐一行っており、使用者が快適に使えるだけでなく、障がいを持った方や外国人の方まで全ての方々が不便なく利用できる施設を目指している点を評価する。 ・コロナ禍を経てインターネットを使用したライブ配信などが盛んになっているが、本施設では貸出のwifiが有線によるインターネット接続に留まっている。建物の制約があるが、今後は全ての場所でwifiにアクセスが出来るようになり、より現代の文化芸術活動に併せた施設になることを願う。
史跡難波宮跡維持管理	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民一般開放のための整備（東側南ブロック）を実施
	<p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古くからの歴史文化が詰まっているエリアにおいて、その歴史的・文化的資産を活用するための整備計画に基づき、安全に行われたことを評価したい。 ・南部エリアと北部エリアでそれぞれの活用計画があるが、その中で現在の大阪の文化や芸術との相乗効果が期待できる取り組みを将来的に期待する。